

電事連会長 定例会見要旨
(2008年9月19日)

私からはまず、関西電力社長として、9月15日に福井県で発生した送電鉄塔での事故につきまして、皆さまに多大なご心配をおかけいたしましたことを深くお詫び申し上げます。

この事故では、鉄塔上で作業を行っていた作業員4名の方々が死傷されてしまいました。お亡くなりになった方々のご冥福を心からお祈り申し上げますとともに、ご遺族の方々に心からお悔やみを申し上げます。また、負傷された方々の1日も早いご回復をお祈りいたします。

現在、当社では事故原因について全力で調査を行っており、取りまとめ次第ご報告させていただきます所存です。

さて、本日私からは、「メガソーラー発電と電気自動車の導入計画」ならびに「今夏の電力需給状況」の2点についてご報告いたしたいと思っております。

1. メガソーラー発電と電気自動車の導入計画

まずメガソーラー発電の導入計画について申し上げます。

私ども電力業界では、太陽光発電の今後の普及拡大に弾みをつけるため、業界を挙げてメガソーラー発電の導入に取り組んでおります。

すでに関西電力や九州電力が、自治体や企業との共同事業や発電所跡地を活用した具体的な建設計画を公表いたしておりますが、7月の会見でお約束いたしましたとおり、業界全体のメガソーラー発電の導入計画を、本日の「総合政策委員会」においてとりまとめましたのでご報告いたします。

資料1をご覧ください。

私ども電力10社は、今後2020年度までに、全国約30地点で、約14万kWのメガソーラー発電所を建設してまいります。

電力各社は、これまでも事業所の屋上などを活用して太陽光発電設備を設置してまいりましたが、スペースにも限りがあり導入量は2007年度末で4,250kWと小規模に留まっております。

このたびの計画は、これまでの導入量の約30倍もの大規模なものであり、現在国内に設置されている全太陽光発電設備、約170万kWの1割弱に相当いたします。

これら14万kWのメガソーラーが完成しますと、約4万軒のご家庭が1年間に使用する電気に匹敵する約1億5千万kWhを発電し、これにより約7万トンのCO2排出量を削減することができると試算しております。

なお、今回、計画の各社別の内訳についてはお示ししておりませんが、地元自治体等との調整が終わっていないものや建設予定地が未確定のものが含まれており、計画を進めるにあたって支障となる懸念があることから公表を控えさせていただきました。ご理解をいただきたいと思っております。

各社ごとの計画については、諸準備が整い次第、順次各社から公表させていただきますが、まずは2009年度までに、既に公表済みの関西電力・九州電力の計画を含めて、合計4万kW程

度のメガソーラー発電の建設に着手する予定です。

ご案内のとおり、「メガ級」すなわち 1,000kW を超えるような大規模な太陽光発電所を建設するには、広大なスペースが必要となります。

ちなみに、今回計画した 14 万 kW の太陽光発電所を建設するためには約 400 万㎡、甲子園球場のグラウンドの約 270 倍ものスペースが必要となります。

このため、今後建設を進めるにあたっては、用地取得の費用や手間がかからない発電所や変電所の空きスペースや遊休地などを中心に設置してまいることになると考えております。

福田ビジョンでは、太陽光発電の導入量を 2020 年までに現状の 10 倍、2030 年には 40 倍に引き上げるという大変高い目標が示されております。

私どもは、今回のメガソーラー発電所の建設・運転を通じて、天候や日射量の変動がネットワーク全体の安定供給に与える影響を検証するとともに、自治体や企業などの動向も見極めながら、さらなる導入拡大に向けて取り組んでまいり所存です。

次に、電気自動車の導入計画についてご報告いたします。

電気自動車は、ガソリン車と比べて CO2 排出量が 4 分の 1 であることから、7 月に閣議決定された「低炭素社会づくり行動計画」においても、2020 年までに新車販売 2 台に 1 台の割合で次世代自動車の導入を図ることになっています。

私ども電力業界では、環境性能に優れた電気自動車の本格的な実用化を目指して、従来から自動車メーカーと共同で走行試験や新型急速充電器の開発などに精力的に取り組んでまいりましたが、さらに普及拡大を後押しするため、業界全体で、2020 年度までに電気自動車約 1 万台を業務用車両として導入することにいたしました。

現在、私ども電力各社が使用している業務用車両は約 2 万台ですので、その約半数に相当いたします。

現時点では、市販車がまだ売り出されていないことから、各社ごとの目標台数を決めておりませんが、今後の価格動向やメーカーの開発動向、量産体制の整備などの進展を見極めながら、さらなる導入拡大も検討してまいりたいと考えております。

2. 今夏の電力需給について

最後に、この夏の全国大の電力需給状況についてご報告いたします。資料 2 をご覧ください。

この夏の 10 社計の最大電力は、左側の表およびグラフのとおり、8 月 4 日に記録した 1 億 7,900 万 kW で、過去 4 番目の水準でした。

各社別では、表の中にアスタリスクを記載してありますが、4 社が過去の最大記録を更新しています。

一方、10 社計の最大電力が発生した際の供給力は、1 億 9,546 万 kW となり、9.2%の予備率を確保することができました。

また、10 社計の日電力量の最大は、7 月 25 日に記録した 34 億 2,109 万 kWh と、全国的に猛

暑となった昨年に引き続き高水準となりました。

各社別でもアスタリスクが記載されている4社で過去最大記録を更新しています。

このように需要が伸びた要因は、西日本で梅雨明けが平年より早く、かつ7月から8月前半にかけて晴れて暑い日が続いたことが挙げられますが、月単位で見ますと、右下のグラフにあるとおり、7月の発受電電力量は昨年に比べて9.5%増加した一方で、8月は、後半に各地で平年を大幅に下回る気温となったため、昨年に比べて5.5%減少いたしております。

なお、7・8月合計の10社の発受電電力量は1,850億5,900万kWhと、3年連続で過去最大記録を更新いたしました。

私からは以上です。

メガソーラー発電ならびに電気自動車の導入計画について

1. メガソーラー発電の導入計画

(1) 電力業界のメガソーラー発電の導入計画

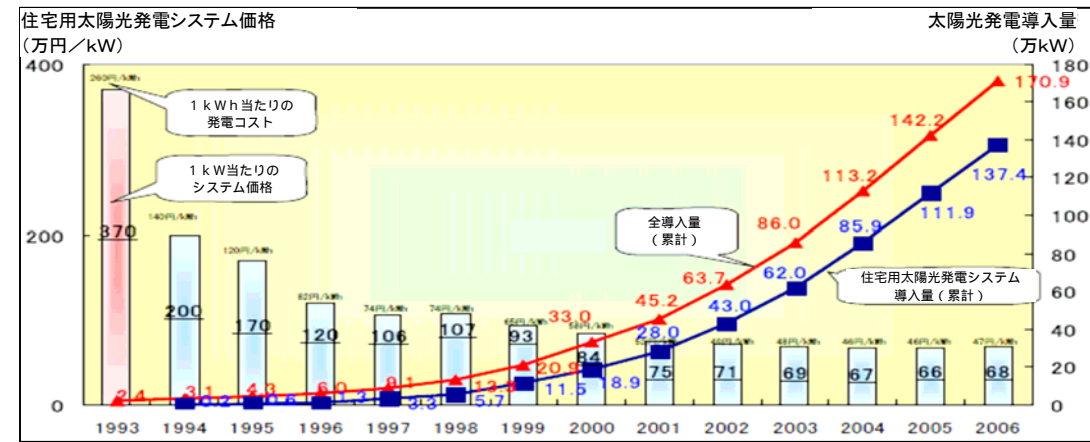
2020年度までに電力10社合計で約30地点・14万kWを導入

- ・2007年度末時点での電力10社の太陽光発電の導入量は4,250kW程度
- ・2009年度までに4万kW程度のメガソーラー発電の建設に着手する予定
- ・14万kWのメガソーラー発電を建設するためには約400万㎡のスペースが必要

(2) メガソーラー発電導入によるCO₂排出削減効果

- ・14万kWのメガソーラーは、約4万軒分の家庭の年間電気使用量に相当する約1億5千万kWhを発電
- ・これによりCO₂排出量を年間約7万トン削減

(参考) 国内における太陽光発電の導入量とシステム価格、発電コストの推移



2. 電気自動車の導入計画

(1) 電力業界の電気自動車(プラグインハイブリッド車含む)の導入計画

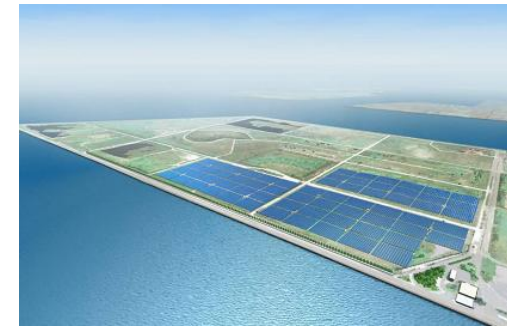
2020年度までに電力10社合計で業務用車両約1万台を導入

- ・電力各社の業務用車両(乗用車・軽自動車)は約2万台
- ・このうち、電気自動車は現在約300台(試験導入含む)

(2) 電気自動車導入によるCO₂排出削減効果

- ・CO₂排出量は、ガソリン車の1/4程度
- ・1万台の導入により、年間1万km走行時のガソリン車と比べて約1万トン削減

メガソーラー発電の導入計画について



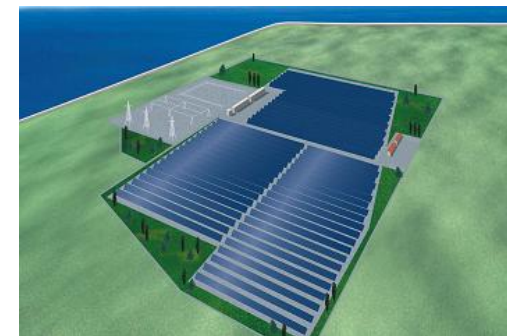
<堺第7-3区太陽光発電所(仮称)>

事業者: 関西電力(株)
場 所: 堺第7-3区産業廃棄物埋立処分場
発電出力: 約1.0万kW
発電電力量: 約1,100万kWh/年
着工予定: 2009年度
運転開始予定: 2011年度



<堺コンビナート太陽光発電施設(仮称)>

事業者: シャープ(株)および関西電力グループで検討
場 所: 大阪府堺市堺区築港八幡町
発電出力: 最大 約1.8万kW
発電電力量: 約1,800万kWh/年
着工予定: 2010年3月までに
運転開始予定: 2011年3月までに



<港発電所跡地でのメガソーラー計画>

事業者: 九州電力(株)
場 所: 福岡県大牟田市新港町
発電出力: 3,000kW
発電電力量: 約315万kWh/年
着工予定: 2009年度
運転開始予定: 2010年度

電気自動車の特徴について



航続距離 80km 以上
高性能リチウム電池の採用により長寿命、急速充電が可能
電池残量計の精度向上
空調装備は冷房 1kW、暖房 2kW
・空調使用による航続距離低下対策を検討
受電方式は普通充電と急速充電が可能
・車載充電器によりどこでも充電可能、急速充電器により短時間で充電可能

今夏の電力需給について

1. 今夏の各社需要実績（発電端）

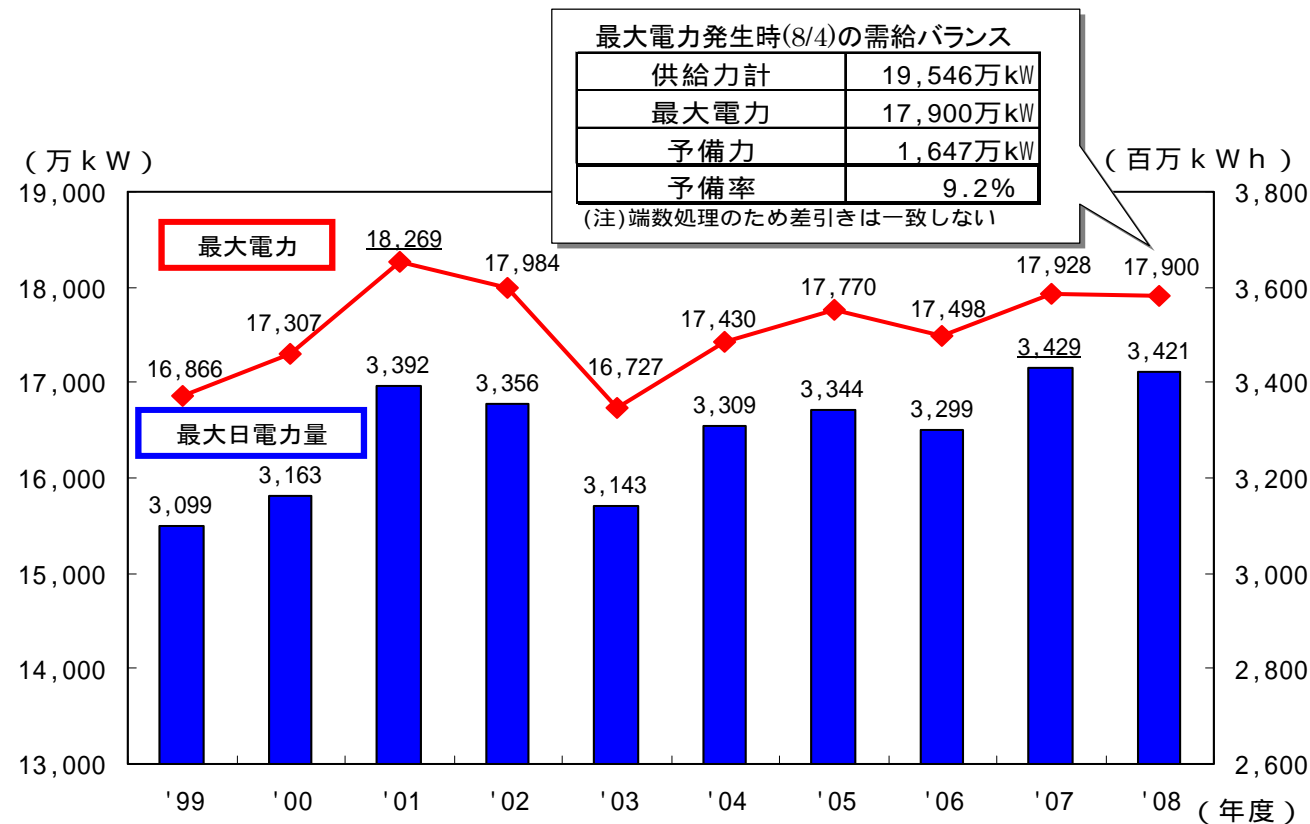
（単位：万kW，万kWh，百万kWh，%）

会社名	最大電力		最大日電力量		発電電力量			
	発生日	前年比	発生日	前年比	(7,8月合計)	前年比		
北海道	485	8/7	99.2	10,116	8/7	99.6	5,804	100.5
東北	1,474	8/7	98.0	28,461	8/7	98.3	15,640	101.0
東京	6,089	8/8	99.1	115,760	8/8	99.4	59,519	100.4
中部	2,821	8/5	100.9	52,753	7/25	100.8	27,301	101.7
北陸	569	7/23	102.0	11,029	7/23	102.8	5,791	104.0
関西	3,084	8/5	100.6	58,194	7/25	100.8	31,330	102.7
中国	1,201	8/1	97.8	23,503	8/5	101.3	12,959	103.4
四国	599	8/4	101.0	11,405	8/5	100.8	6,248	103.4
九州	1,771	8/1	100.5	33,994	8/1	101.5	18,670	101.9
沖縄	149	7/8	97.1	3,094	7/4	96.8	1,798	99.6
10社計	17,900	8/4	99.8	342,109	7/25	99.8	185,059	101.6

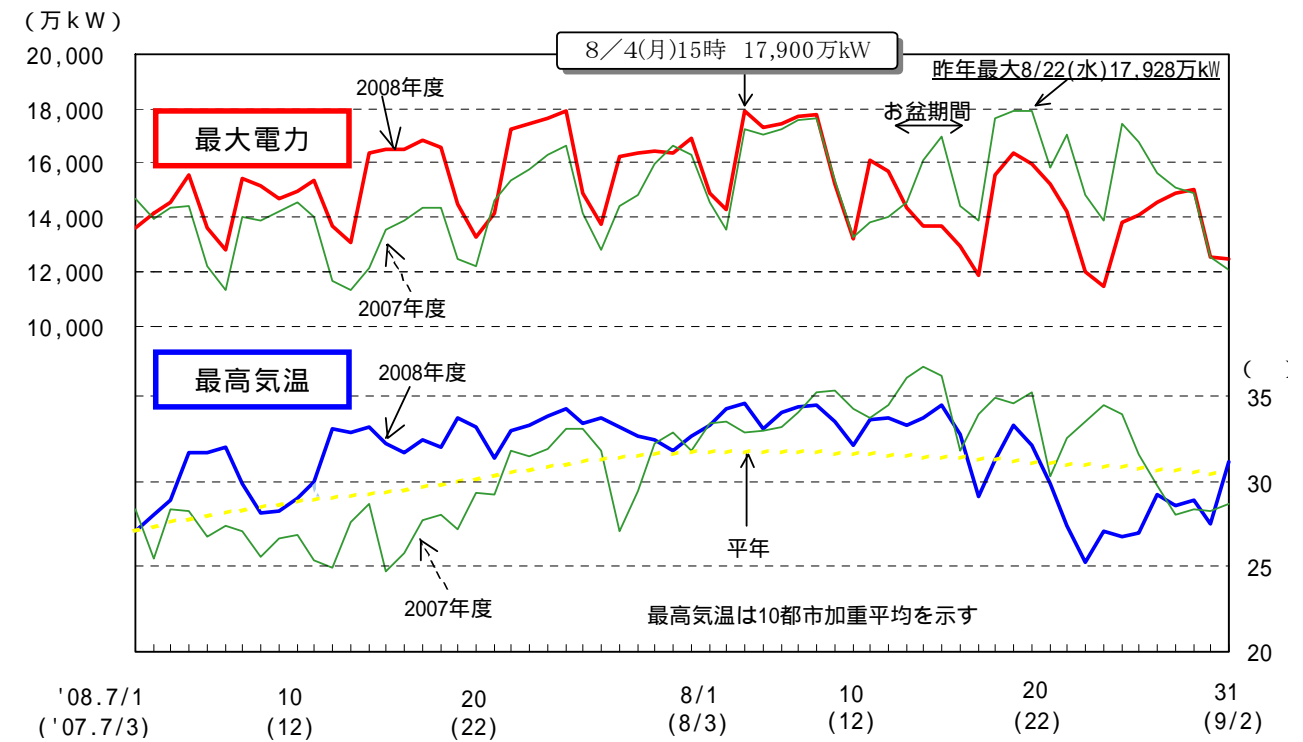
（注）1. は新記録更新， は夏季の記録更新， 内の数字は新記録更新回数を示す。

2. 発電電力量は7月確報値、8月速報値。

2. 10社最大電力と最大日電力量の推移



3. 10社最大電力と最高気温の変化



4. 10社発電電力量の推移（7 - 8月）

